

東京大学公開講座「成熟」  
2008年10月18日（土）

## 閉塞と成熟——中国明代の詩と小説

大木 康（東洋文化研究所）

中国文学

明清の文学

明（1368～1644）

清（1644～1911）

漢：司馬遷『史記』、班固『漢書』

唐：李白、杜甫、韓愈、柳宗元、白居易（楽天）

宋：蘇軾（東坡）

明・清：『三国志演義』『水滸伝』『西遊記』『金瓶梅』『三言』『紅樓夢』  
（白話小説）

中国伝統文学（文言の詩文）における成熟と閉塞

〔明初〕葉子奇『草木子』卷四之上

後世にまで伝わる価値のあるものは、漢代においては散文であり、晋代は文字（王羲之などの書）であり、唐は詩であり、宋は理学（朱子学を代表とする性理の学）である。元において後世に伝わるものといえば、北楽府（元曲）であろう。

漢文・唐詩・宋詞・元曲・（明清小説）

明代の古文辞派（擬古派）

李夢陽（1472～1529）、何景明（1483～1521）を代表とする前七子

李攀龍（1514～1570）、王世貞（1526～1590）を代表とする後七子

「文は必ず秦漢、詩は必ず盛唐」

民衆の歌への関心

李夢陽「詩集自序」（『空同先生集』卷五十）

そもそも詩は天地自然の音である。今道路や路地裏で歌い、労働の折や休息

の折に歌って、一人が歌い出すとみなが唱和するのは、真だからである。これを風というのである。孔子は『礼失われてこれを野に求む』といった。いま真詩は民間にあるのに、文人学子はしばしば韻を踏んだだけの言葉を作って詩だといっているのである。

沈徳符『万曆野獲編』卷二十五「時尚小令」

宣徳・正統から成化・弘治以後になると、中原ではまた、「鎖南枝」「傍粧台」「山坡羊」の類が流行した。李崆峒先生(李夢陽)が、慶陽(甘肅)から汴梁に移り住んで、これを聞き、国風の後を継ぐことができるものだといわれた。何大復(何景明)が引き続いてやってきて、またこれを酷愛した。

馮夢龍の『山歌』

馮夢龍(蘇州の人、1573～1646)

馮夢龍「叙山歌」

今は末の世であるが、仮の詩文があるばかりで、仮の山歌はない。なぜなら、山歌は詩文と競争しようということがないから、仮がないのである。

伝統詩文——仮

山歌——真

「人の目をあざむく」(『山歌』卷一)

男ができて雪の中をやってきた

家のまわりの足跡、だれかに気づかれる

銅錢三つでわらじを買って、あなたにうしろまえにはかせましょう

去ったと思って来たと思わず

馮夢龍と白話小説

『新平妖伝』『新列国志』

「三言」(『古今小説』『警世通言』『醒世恒言』)

上田秋成『雨月物語』

明末に大量の白話小説があらわれたのはなぜか？